企業名：シチズン時計株式会社

レポート名：シチズンレポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

シチズン時計株式会社（以下、シチズン）は、シチズンレポート 2021 で「市民に愛され市民に貢献する」を経営理念として掲げ、従来のものづくりに留まることなく、新たな価値創造に挑戦し続けていくと述べている。実際に 2021 年度通期決算説明会のプレゼン資料によると、サステナブルウォッチブランド『CITIZEN L』のシグネチャーライン『アンビリュナ』から、生物の仕組みや自然の美しさに学ぶバイオミミクリーを取り入れた新作として「地・水・火・風」をテーマにデザインした 10 周年記念限定モデルを含む全 4 モデルを 2022 年 7 月に発売する予定であり、従来のものづくりに留まらない姿勢を見せている。

また、時計製造で培った「小型化」「精密加工」「低消費電力」の技術を応用し、小型金属加工事業をコアに多様な車載関連製品の展開を目指すなど、新たな価値創造を目指す取り組みの一環を見ることができる。

以上のことから、シチズンはシチズンレポート 2021 で自らの経営理念を明確に掲げ実行に移しており、この会社の目指す姿は明確に理解できると思われる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

シチズンはシチズンレポート 2021 で時計事業における自社の強みとしてアナログクオーツに関する世界トップクラスの技術開発力を挙げている。実際にこれまで光発電時計として世界最高精度となる年差±1 秒を備えた Caliber 0100 を搭載した「The CITIZEN」や、世界で最も薄い光発電時計「Eco-Drive One」を開発しており、実績もあることが確認できる。さらにシチズンは高いチタニウム加工技術と表面処理技術を有し、軽くて傷がつきにくく、耐メタルアレルギー性の肌に優しい製品を生産していると述べており、チタニウム加工技術と表面硬化技術「デュラテクト」を組み合わせたスーパーチタニウムで製作した部品が民間月面探査プログラムの月面着陸船に採用予定となるなど、時計以外の分野でもその技術力は高い評価を得ている。

他にも工作機械事業における強みとして LFV（低周波振動切削）技術及び摩擦接合技術といった独自技術や操作性、加工技術に関するノウハウを挙げている。販売先に関して、国内、中国を含むアジア、ヨーロッパ、アメリカの 4 地域で販売できていることに加え、業種についても自動車関連、医療関連、IT・通信関連、精密機器など、1 つの分野に偏ることなく、幅広い事業展開を行っていると自負している。

以上のことから、シチズンはシチズンレポート 2021 で自らの競争優位性をこれまでの実績とともに掲げていることから、この会社の競争優位性は十分に理解できると思われる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

シチズンは新型コロナウイルス感染拡大に伴うリスクは残るものの、2020 年度に実施した施策により、市場環境の変化にも対応できる体制を整えている。2021 年 8 月に発売された高精度機械式ムーブメント Caliber 0200 を搭載した「The CITIZEN」メカニカルモデルや、耐磁性能を強化した機械式ムーブメント搭載した「Series 8」は、発売前から大きな反響を呼んでおり、シチズンの技術力の高さを示す新たな強みとしてシチズンの競争優位性の持続に貢献していると考えられる。工作機械事業に関しては自動車の EV 化に伴う自動運転技術、・自動ブレーキ技術の進化により小型モーターやセンサーなどの新たに増加する部品需要があると見込んでおり、商機が広がる可能性もあると考えている。自動車関連分野以外にも医療分野においては医療技術の高度化により伸びしろが大きく、シチズンが期待している分野の 1 つとなっている。

以上のことから、シチズンは現時点で自社の持つ高い技術力を時計分野だけでなくほかの幅広い分野での継続させることに成功していると考えられ、シチズンが持つ競争優位性には持続性があることが理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

シチズンは人材育成に関してシチズンレポート 2021 で、2019 年度から運用している、複数の様々な立場の関係者が 1 人の従業員の評価を行う 360 度評価の成果を人材マネジメントや研修内容の向上に活用しているとし、優秀な人材を生かすためのタレントマネジメントでは、従業員から保有資格や異動希望などを申告してもらうほか、研修メニューについても、各自の学びたいことや実現したいことに合わせた研修メニューを設けるなど、個人のキャリア形成を支援する仕組みを構築していると述べている。

したがって、シチズンは従業員の人的資本の育成に取り組んでいることがシチズンレポートから分かり、この会社で自分の人的資本の価値向上を達成できる可能性は大いにあると考える。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

全体として読みやすく、分量的にも 19 ページと自社の実績と魅力を伝えるのに最適な量であると考えられる。しかし、1 つだけ改善の余地があると思われる。シチズンはシチズンレポートで自社が取り扱う分野について実績等を交えて強みを紹介していたが、その強みが顧客にどのような価値を提供するのかということについてあまり精力的に提示していなかったように思われる。シチズンと同じく時計事業など様々な事業を展開しているカシオ計算機株式会社は自らの統合報告書で、自らが展開している事業が顧客にどのような価値をもたらすのかを事業ごとに提示しており、この点においてはシチズンに改善の余地があると考える。

【参考文献】

・シチズン時計株式会社　シチズンレポート 2021　group_profile.pdf (citizen.co.jp) 2022/07/05 アクセス
・シチズン時計株式会社　2021 年度通期（2022 年 5 月 12 日）決算説明会プレゼン資料 FY21_4QP.pdf (citizen.co.jp)　2022/07/05 アクセス
・カシオ計算機株式会社　統合報告書 2021　Integrated Report 2021 (casio.co.jp) 2022/07/09　アクセス